

来て

Kite

Mite

見

Niigatakenritsudaigaku

新潟県立大学!



地域振興は人づくりから

地域に根ざし、世界にはばたく

University of Niigata Prefecture

新潟県立大学広報誌

2015.1 No. 12

新潟県立大学ニュース



CONTENTS

授業紹介	2
研究紹介	4
学生生活	5
連花祭	6
学生の旅	8
教員の旅	9
留学・研修	10
図書館・東京サテライト	12

■新潟県立大学の基本理念

○国際性の涵養

東アジアをはじめとする世界の
人々との社会的・文化的交流を
促進し、グローバルな視点から
の教育研究を進めます。

○地域性の重視

郷土の自然・文化への理解を
もって地域づくりや地域の共生
を担う人材を育成し、地域社会
に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養

豊かな人間性を培うために、学生
一人ひとりに対してきめ細やかな
教育を行い、学生同士が切磋琢
磨し学び合う環境をつくります。

■学部・学科構成

男女共学 四年制

国際地域学部	国際地域学科	入学定員180名
人間生活学部	子ども学科	入学定員 40名
	健康栄養学科	入学定員 40名

授業紹介

Class introduction

Principles of Economics B (Macroeconomics) & Workshop

国際地域学科 講師 Bethany Iyobe & 李佳

この授業は、2年次に開講されるiSEP (International Studies in Economics and Politics)のbridge classes、語学の教員と専門科目の教員と一緒に教える授業です。北米の大学で定番の教科書(経済学入門レベル)を使い、学生は毎週30ページ程度の英語のテキストを宿題で読みます。グループワーク、ディスカッション、発表などを通してテキストを深く読解し、教員の助言を得ながら理解を深めます。学生中心の学びは履修者の学習意欲を高め、受動的に講義を聞くよりも知識を吸収できます。語学力のバリアと内容を認識する能力のバリアが同時に生じるため、集中力が要求され、結果として語学力の向上と専門知識の習得が同時に効果的に行われます。海外の教科書を使うことで、経済成長、景気変動などの概念を異なる側面から見ることができ、日本とは異なる他国の経済事情や異なる考え方に触れることができます。

国際地域学科 2年 大越史也

マクロ経済学の授業では文献資料を読み、それに関するディスカッションを行います。1年次に比べ、英語を「聞く」「読む」ことだけでなく、「話す」機会が格段に増えました。初めは英語を上手く話すことが出来ず、相手に正しく伝わらないことも多々ありましたが、回を重ねる毎に上達し、英語力が向上していると日々感じます。プレゼンなど人前で話す機会が多いため、将来社会人として必要なスキルも同時に学ぶことができると感じています。時折、日本語で学ぶよりも英語で学んだ方が分かりやすいと感じる分野もあり、この授業は知識を深める上で最適だと思います。時に難しいと感じることもありますが、得られる知識や経験は他の授業では得ることの出来ないものなので、大変楽しいです。



保育内容(造形表現Ⅱ)

子ども学科 教授 戸潤幸夫

乳幼児期の表現活動は、子ども達の創造性を育むと共に知的好奇心や探求心の芽生えを培うためにも大変役立つものと考えられる。五感を働かせながら感じたことを相手に伝えるためにどのような表現手段を使うか思い巡らすことでイメージする力、つまり想像する力が養われるのである。造形の授業は、すなわち将来保育士として現場で活躍するための造形活動の実践力を育成するだけでなく、創造力や主体性を育成するためにどのような活動・展開が大切なのかを学ぶためにあります。

子ども学科 2年 舟山和希

造形関連の授業では、粘土やシャボン玉、ビー玉を使った子どもと一緒に楽しめるような簡単な制作から、デッサン・デザインや切り絵、絵本制作などの少し難しいことまで、美術や工作に関わるたくさんの体験ができ、どの授業にもクラス全員が小さな子どものように楽しみながら真剣に取り組んでいます。実歳に作ってみることで、その遊びや制作の楽しさを体感できるので、将来子どもと関わる場面で生きてくると思います。



臨地実習I・II・III合同報告会

健康栄養学科 教授 田村朝子

栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格取得のため、健康栄養学科では、病院や福祉施設、保健所などの管理栄養士が勤務する施設での「臨地実習」を3年次に履修することを必須としています。そして4年次に、その実習成果を合同報告会で発表しています。今年は、5月17日に、実習でご指導くださった管理栄養士の方々、1～4年全ての健康栄養学科学生および教員の参加の下、開催されました。

実習成果を発表した4年生は、合同報告会に向け臨地実習で得た知識や体験をテーマ別に系統立ててまとめることで、管理栄養士の業務や社会的役割についてより理解を深めることができたようです。



健康栄養学科 4年 酒井花奈江

臨地実習合同報告会は、テーマ設定から資料作成、当日の運営まで全て学生主体で行われました。実習先で学んだことをまとめ、作成した資料は非常に完成度の高いものになりましたし、当日は施設ごとに異なる管理栄養士の役割について、1テーマ10分という限られた時間の中で要点を押さえて発表できたと思います。また、ポスター閲覧の時間には、4年生が3年生に直接説明し、質問を受ける場面も見られました。発表終了後、実習先の先生方よりお話やご指導をいただき、大変有意義な報告会となりました。



「ポストコロニアル研究入門」の学生2名による授業紹介

国際地域学科 2年 長嶺敬介

「ポストコロニアル研究入門」は、2、3週毎に違う教授によって授業が行われる、今年から始まった新しい授業です。「ポストコロニアル」とは直訳で「植民地時代後」であり、授業では植民地時代後にも世界に残る人種差別などの問題について学習しています。第1回から第4回までの授業では、福本圭准教授から人種差別撤廃に向けてガンディーやキング牧師がどのような取り組みをしたのかについて学習しました。第5回からの授業では、小谷一明准教授による新潟を起点として近現代の日本についてポストコロニアル的に考える授業が行われています。現在にも残る植民地主義の問題を理解し、その問題を解決するには世界はどう変わるべきなのか、また私たち一人ひとりはどうあるべきなのか考えさせられる授業です。



国際地域学科 2年 根立龍斗

「ポストコロニアル研究入門」では、世界には様々なかたちで植民地状態がまだに残っていることを広い文脈で学んでいます。その事例の一つに、沖縄があります。沖縄には、日米安全保障条約の象徴である、米軍基地があります。日本政府の押し付けにより、沖縄本島の約18.4%を米軍基地が占めていて、訓練による事故や米兵による事件が後を絶ちません。それに加えて、辺野古には、普天間米軍基地移設先として、新基地が建設されようとしています。私は、今年の夏、辺野古に実際に行ってきたのですが、住民たちの反対運動が想像をはるかに超える勢いで毎日行われ、沖縄住民は本気で反対していました。この授業で、沖縄がなぜこの植民地状態から抜け出せないのかを学んでいきたいです。



小谷先生による授業風景

研究紹介

STUDY INTRODUCTION

国際地域学科 教授 木佐木哲朗

文化人類学を専門にしていますが、特に関心があるのは、儀礼と共同体の関係や開発と自治の問題などです。35年前の沖縄・竹富島の調査が最初で、その後フィリピンの山岳少数民族を中心に研究を続けてきました。フィリピンには私の儀礼的子どもが2人おり今年はその1人の結婚式に参列したり、沖縄・波照間島の調査も3年目になりました。フィールドワークの面白さと難しさを改めて痛感しています。



国際地域学科 准教授 渡邊松男

内戦を経験した旧ユーゴスラビア諸国はなぜEUへの加盟をこぞって希望するのか？ とはいえ加盟要件である国内の諸改革はなぜ進展しないのか？ 私は途上国の経済と地域統合を主なテーマとしています。これまで東アフリカや地中海諸国のFTAが加盟国に与える影響を研究してきました。本学赴任前のボスニアヘルツェゴビナでの首相アドバイザーの経験やJICAでの研究を通じて暖めてきた冒険のような研究課題に取り組んでいます。



サラエボ五輪グランドの集団墓地

健康栄養学科 講師 神山伸

ビタミン類、糖鎖、コラーゲンなど、栄養素や食品に含まれる機能性成分が癌や炎症、骨代謝などに及ぼす影響を、分子レベル、細胞レベル、個体レベル(モデル動物)で調べています。これまでの研究で、糖鎖の合成や硫酸化に関わる輸送体などを新しく見だし、それが生体でどのように役立っているのかを明らかにしてきました。その中には、「世界で初めて」その機能を報告したものも含まれています。

県立大学での研究はまだ緒についたばかりであり、「これまで誰もやっていないこと」をどのように明らかにしていけるのか、ワクワクしながら実験しています。学生達も「言われたことをやる」というのではなく、誰も答えを知らないことを知りたいという「知的好奇心」から、一緒に研究を楽しんで貰えればと考えています。



子ども学科 教授 島崎敬子

「Nothing About Us Without Us」私たちのことを、私たち抜きに決めないで」という、当事者の思いや願いに寄り添う「障害者の権利に関する条約」が、日本でもようやく批准・発効し、政令市新潟でも、障がいのある人の差別や生きづらさをなくしていくための「(仮称)障がいのある人もない人も一人ひとりが大切にされる新潟市づくり条例」の制定や、障がいのある人の生活を支援する施策づくりに向けて、当事者をはじめ様々な分野・立場の人が一体となって議論をしています。

これらに繋がる研究活動として、新潟市と協働した施策づくりに向けた当事者へのアンケート調査や、条例の中身について弁護士会と勉強会を行うなどの活動に参加し、多様な業種・職種で仕事をしている人や、分野が異なる研究者と、「今がその時」と熱い議論の場を重ねています。

障がいのあるなしにかかわらず、差別や生きづらさをなくすための「合理的配慮」は、身近なくらしの場から社会のしくみまで大きく変えていくキーワード、大学や地域で学びあい、考えあう場をもつことが大事であると思います。



国際交流インストラクター

国際地域学科 2年 佐藤愛

私が1年時から携わっている国際交流インストラクターの活動を紹介させていただきます。この取り組みは新潟県内の小学生から高校生を対象に、国際理解を促進するためのワークショップを開催するもので、本学では女子短期大学時代から継続して取り組んでいます。平和問題・文化・環境問題など様々な観点から日本や世界を見つめ、それらのテーマを参加者である生徒と大学生が対等な立場で楽しみながら考えることができるように努めています。豊かな発想力を持って出てくる参加者の発言に大学生は刺激され、毎回のワークショップを非常に楽しみながら行うことができます。

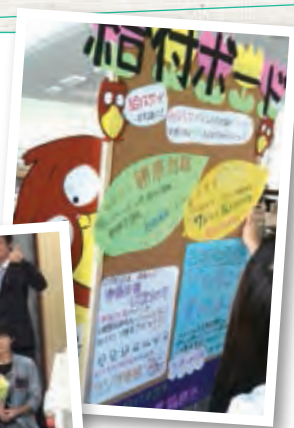
夏と冬には共に活動をしている新潟国際情報大学と敬和学園大学の学生と合同で、互いのワークショップの評価や活動報告等を行う研修会によって、学生間での学びの機会を設けています。今後もより活発な国際交流インストラクターの活動となるように一層励んでいきたいと思えます。



生協学生委員会ちゅーりっぷ

国際地域学科 2年 荒井望

私たち生協学生委員会ちゅーりっぷは、大学生協の組織委員の1つとして、大学生協と協力しながら、組合員のより良い生活のために活動しています。4月には新入生向けの交流会である「友作祭」、自炊教室である「びすとろUNP」、在校生向けには海外旅行の経験談を学生が学生に話す「そうだ、世界へ行こう」や学生ホールのばれっと2階に掲示してある「共済」の「給付事例ボード」の作成などの活動を行っています。普段は毎週金曜日の5限に学生ホールのばれっとの2階でミーティングを行い、各企画実行に向けての話し合いを



行っています。これからも組合員の生活の役に立つようないい活動を行い、もっと生協を身近に感じてもらえるよう励んでいきます。

スタンプは
コチラです〜



スタンプラリー

各模擬店・展示団体に設置してあるスタンプを
ゲットして好きな景品と交換できるということで、
たくさんの方々に参加していただきました。
また、役員がスペシャルスタンプ(押しもらすと
飲物1本無料でもらえる)を持って出歩くと
子どもから大人まで積極的に
スタンプを集めてまわっている風景があり、
とても盛り上がっていました。



連絡



盛り上げ役は
おまかせ!



地域の輪

レングでつなぐ



ステージ・ パフォーマンス

各サークルや学生団体がパフォーマンスを
通して新潟県立大学の魅力を発信しました。
発表者と観客が一体となって
盛り上がりを見せていました。

景品は
超豪華
ですよ〜

ビンゴ大会

2日間に渡って多くの方に
参加してもらいました。
エントランスホールに収まり
きれないほどの方々が参加し、
豪華賞品をめぐって
皆さん盛り上がっていました。

景品、
何かな〜?



お楽しみ中

お楽しみ中

又 夕 示 2014 10月25日・26日

UNP

来場者の方々に、学生の生活風景を知ってもらうために、新潟県立大学の学生の普段の様子を各学部・学科に分かれて紹介しました。



大学って、こんな感じなんだ～



県大飯店へようこそ～



模擬店

晴天のもと、並木道と大学内の教室を使ってサークルや学生団体が模擬店を開きました。各団体の特色を上手に表現した食品を販売していました。



メインイベント

来場者の方に協力してもらって、巨大フォトアートを作りました。新潟をモチーフにした素晴らしいものを作ることができました。



展示

サークルやゼミなど日頃の活動の成果を展示していました。どの作品も熱が入ったものでした。



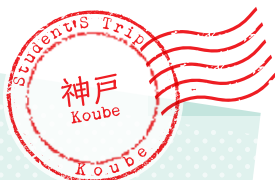
蓮花祭はイベント盛り沢山だよ～



学生の旅

国際地域学科 4年 堀内綾

こんにちは。堀内綾です。私は縁あって2013年の6、7月に、スリランカの南部の孤児院でお手伝いをしていました。そして今年の9月に2度目のスリランカ訪問をさせて頂きました。スリランカは日本人が無くした多くの物が残っている、人と自然が素晴らしい国です。開発途上国へ行くことは、恵まれた日本人にはキツイものがあります。水が出るとは限らないし、そこら中にハエはいるし、電気が止まることなどしょっちゅうです。でも私が会ったスリランカの人々は他人に興味があり、笑顔で紅茶を提供してくれる、素晴らしい方々でした。若いうちに旅をしろ、と言いますが、開発途上国を見聞きすることは、人として、物質的ではない大事なものを知る大きなチャンスだと思います。勿論、先進国を知ることも大切ですが、学生のうちに、多様な生活や社会を知ることが、世界に羽ばたく人間にとって不可欠だと思います。



健康栄養学科 3年 石崎佳奈子

私は3年の夏休みに神戸へ旅行に行きました。新潟で一人暮らしを始めてから関西方面はあまり行ったことがなかったため新鮮でした。独特の方言や人間性に触れることができました。地域独特の文化や地域性を肌で感じ、いい経験をしたと思っています。ことに、神戸は地元をPRする力が大きいと感じました。今まで知らなかった神戸の魅力を知ることができたと同時に、地元を愛する思い・人を惹きつける力をこの旅行中に学べてよかったです。



国際地域学科 4年 穴山桂介

私はバックパッカーとして5カ月ほど東南アジアとネパールを旅していました。8ヶ国に行きましたが、どの国でも普段味わうことのできない貴重な経験をすることができました。ネパールでのヒマラヤトレッキングでは目の前に広がる6000~7000m級の山々のスケールの大きさに圧倒され、以来山の魅力に惹かれ、登山が趣味になりました。またタイでは、ナイトマーケットでたこ焼きを作るタイのお母さんとその家族の人たちと仲良くなり、タイにも家族が出来たように感じています。毎日のように屋台のお手伝いをしたり、一緒に観光に行ったりすることもあり、とても気持ちの良い人たちでした。この旅の1年後に再びお母さんたちに会うためにタイを訪れましたが、私のことを覚えていてくれ、以前と変わらず優しく接してくれました。私が旅をしていて何よりも感じたことが、人のあたたかさです。多くの人に親切にさせていただき、その中で出来た友人たちが旅の財産であると強く感じています。



子ども学科 3年 野上晴香

夏休みに1週間、カンボジアでのスタディツアーに参加しました。カンボジアの歴史や現状について学んだり、現地の子どもや大人たちと交流したり、虫を食べたり、市場に出かけたり…と本当に盛りだくさんでした。カンボジアの悲しい歴史や、厳しい生活の様子を学び、衝撃を受けたと同時に、言葉が通じなくても表情や、歌で心が通じた嬉しさや、自然と共にのんびりと暮らす今まで味わったことのない生活を体験できました。刺激的で心温まる出会いがたくさんあり、またカンボジアに行きたいと思っています!



教員の旅

故郷

国際地域学科 講師 李佳

写真は砂漠に書かれた「故郷」(モンゴル語)という言葉です。2005年に中国内モンゴルのエチナに暮らす26歳の遊牧民が書いたものです。この地域は深刻な水不足に悩まされ、日本に飛来する黄砂もここから飛んできます。2002年から中国政府は様々な政策を実施し、環境改善をはかってきました。そのうちのひとつが、過放牧問題を解決するために採られた生態移民です。遊牧民が元々暮らしていた牧草地から、町やその郊外への移住を促すものです。その結果、多くの遊牧民の生活様式は遊牧から定住へ、ゲル(モンゴル高原の移動式住居)暮らしからレンガ造りの家での暮らしへと変化しました。彼らのここにある故郷のすがたは家畜と一緒に生きてきた大草原ですが、彼らの次の世代の故郷は、変わっていくことでしょう。現地調査のためにほぼ毎年訪れていますが、文化とは何か、開発とは何か、伝統とは何か、いろいろ考えさせられます。



学生との水俣訪問

国際地域学科 准教授 小谷一明

2014年9月初めに新潟県の支援を受け、4年生2人、教員2名で熊本県水俣市を訪れました。水俣は不知火海(熊本、鹿児島、天草諸島に囲まれる内海)一帯の環境を破壊した「チツ」という会社のある場所で、公害という言葉の原点とされる場所です。水俣に続き、新潟においても阿賀野川流域で水俣病が発生しました。2015年、新潟は水俣病公式確認から50年目を迎えます。被害地域に隣接する県大では、継続的にこの問題を学生とともに学んでいます。



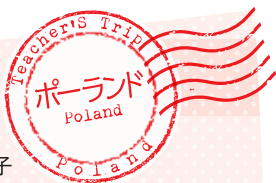
水俣病資料館の前で語り部の南アユコさんと歓談



教員の旅

健康栄養学科 准教授 村松芳多子

2015年は、第2次世界大戦後70年になります。日本人は平和ボケと言われるほど、過去の戦争の歴史に疎い人が多い(私もその一人です)。世界は今も戦争が行われている地域があります。そして、戦争の傷は次世代以降に受け継がれています。日本人として「忘れた。知らない」と言ってしまうと、4年前になりますが、負の世界遺産に触れる機会がありました。ポーランドの『アウシュヴィッツ強制収容所・ビルケナウ』です。敷地には高圧電流が流れていたであろう有刺鉄線がありました。切り取られた髪の毛の山、履いていた靴の山など、いたましい展示物があります。「命の大切さ」を再度確認でき、事実を直視できた旅となりました。



山旅

子ども学科 教授 大桃伸一

新潟県立大学創設の仕事をするようになってから、山によく行くようになりました。近年は深田久弥の日本百名山の完登を目指し、かなり計画的に登っています。深田が山の品格、歴史、個性の3つの基準から15,000以上あるわが国の山々の中から選んだ百名山はどれも魅力的で、まさに「百の頂きに百の喜びあり」です。山に行く大自然の素晴らしさに癒され、リフレッシュできます。心とからだの健康に山歩きはとてもよいです。

日本百名山は北海道から九州までありますので、コースによっては名所を訪れたり、各地の美味しいものを食べたりする楽しみもあります。今年特に印象に残っているのは、関西の百名山に登る途中で見学した彦根城と法隆寺、岩手山に登る前に訪れた宮沢賢治記念館です。また、熊野・大峰山のふもとの宿では鹿の刺身、猪肉の牡丹鍋、熊肉の炊き込みご飯を味わい、北海道・利尻山への山旅では蛸のシャブシャブやイクラ・ウニ・カニの三色丼に舌鼓をうちました。本学の学生や卒業生と行った北アルプス縦走も絶景の連続で、忘れられない楽しい山旅となりました。



On the way to Trilingual

国際地域学科 2年 河原夏海

現在韓国語を専攻しています。2年生になって韓国語の授業が始まってから英語の授業は減らさざるを得なくなりました。ですが幸い2年生になってからもTOEICやCASECの点数を伸ばすことができました。大事なことは毎日少しでもいいから英語に触れることだと思います。前期の間はSALCに行って新聞を読んだり、家でネットを使ってリスニングをしたりしていました。私は英語を勉強するにあたってネットアカデミーをよく利用します。特にTOEICテスト演習は短時間でTOEICのミニテストができるのでお勧めです。演習後にリスニングの問題を使ってシャドーイングをするなどで何度も復習しました。TOEICなどの試験に向けた勉強はそれしかしていません。また、英語を話せるようになりたくて空き時間にSALCのメンターさんをお願いして英会話の練習に付き合ってもらいました。韓国語は、授業以外には勉強らしい勉強はほぼしていません。ただドラマを見たり音楽を聴いたり日常的に韓国語によく触れるようにしています。韓国語コースには親切な先輩方や先生方がたくさんいるので、ドラマを見ていてわからなかったセリフや歌詞などを聞いたりもします。

Study Program in.... 夏休みに行われた海外語学研修。参加した在校生の声を聞いてみましょう。

China

国際地域学科 4年 山本千聖

私は中国語長期語学研修に参加し、1ヶ月間中国に滞在しました。最初の1週間は北京で中国の文化に触れ、後の3週間はハルビンにある黒龍江大学で中国語を学びました。北京にいたのは短い期間ではありましたが、中国の歴史的な面と現代的な面、どちらも見ることができ、内容のつまった1週間でした。

ハルビンに移ってからは中国語の外国人向けクラスに参加し、韓国やロシアの生徒と一緒に勉強しました。最初は、現地での生活に戸惑いを覚えることも多くありましたが、帰る頃にはもっとここにいたいと思うほどになりました。中国語を学習している人で研修に参加するか迷っているなら、ぜひ参加して欲しいです。

Russia

国際地域学科 3年 平山奈未子

初ロシア、初の Санктペテルブルグでの3週間は、毎日が驚きで新鮮なものでした。

私の通った学校では、様々な国から幅広い年齢層の人々が集まり、少人数編成かつ自分に合ったレベルのクラスで授業が受けられました。ネイティブの先生は英語も堪能なため、意思疎通で困ったときに助かりました。ステイ先では、自身のリスニング力の低さに気付かされつつも、やさしいファミリーや意外とおいしかったロシア料理で毎日楽しくコミュニケーションがとれました。

この研修で最も印象的だったことはやはりホームステイで、ロシア語の日常会話を常に浴びるだけでなく、ロシアの人々の生活を体験し少し知ることができ、自分の身になる非常に良い経験となりました。

Hawaii

国際地域学科 2年 福原亜美

私はこの研修で、英語で会話をする楽しさを知りました。初めのうちは特に、普段授業以外の日常会話などで英語を使うことが全くと言っていいほどなかった私にとって、自分の言いたいことをうまく伝えられなかったり相手の答えを聞き取れなかったりしてもどかしい思いをすることがたくさんありました。

しかし、諦めずにたくさんの人に積極的に話しかけていった結果、徐々にスムーズに会話ができるようになっていくことを実感することができました。その瞬間はとても嬉しかったです。同時に、私はこの研修を共に過ごしてくれた仲間たちに本当に感謝しています。助け合い笑い合いながら過ごした3週間は何にも代え難い大切な思い出です。

Korea

国際地域学科 3年 佐藤舞子

この1ヶ月間を一言であらわすことは不可能です。これからの人生、ここまで濃い1ヶ月間は二度と訪れないと思いました。初めの2週間は毎日市内見学をしました。国立中央博物館、BIBAP、ロッテワールド、チュンク(旧盆)中の景福宮、昌慶宮、大学路のアートロード、漢江でピクニックなどたくさん歩き回りました。そして釜山旅行も。後半は朝から昼まで外大(外国語大学)で授業があり、アジア諸国やヨーロッパ、中東から来た友達と一緒に同じ部屋で授業を聞きました。まさかイスラエルから来た同い年の女の子と韓国語で理想の結婚生活を話しながら笑い合う日が来るとは思いませんでした。帰国する前日の野外活動で民俗村へ行きましたがクラスの友達や先生と別れる時が本当に辛かったです。韓国人との出会いも短い期間で数え切れないほどたくさんありました。今回の1ヶ月間の海外研修で、韓国人にとってのキムチのように、韓国と韓国語は私たちにとってより切り離せないものになったと思います。





This is how I study English. TOEIC 470 to 915

国際地域学科 4年 品田絵梨

私は昨年7月に8ヶ月間のカナダ留学を終え帰ってきました。ここでは留学によってどのように英語力が向上したか私個人のお話をさせていただき、留学を考えている人や、なんとなくしたいと考えている人の参考に、また考えていない人にも語学の勉強のヒントになればと思っています。

英語圏に滞在することによって英語力が上がるのは、もちろん英語に触れる機会が増えることで単語量や表現力の増加、慣れなどの英語力の底上げになるためだと考えています。ただこれは留学が終われば完結しますし、裏を返せば英語に触れる機会は日本でも作れます。もう一つ私なりに考えた留学の成果は、実際に英語を意思疎通の手段とする体験を経て、英語が「使うもの」という意識に変わり、それにより試験対策のような勉強から、「使うこと」を意識した学習に変わったことです。例えば新しい単語を覚えるとき、自分が会話の中で使っているのを場面で想像し、似たような類語も例文を見比べて場面を区別するといったようなことです。最近も単語帳を開いて「[pavement(舗装道路)]なんて覚える必要がある? 難しいし、roadとかで通じる…」と思いつつ、例えば車椅子の

話題にはroadでは事足りないと思い、話し相手も含めてそれを話題にした会話を想像しました。自然と動詞あるいは前置詞との組み合わせ方も考え調べます。時間はかかりますが、単語帳に並んだ通りに視線を動かすだけより面白いし一気に今までの壁を越えられるのではと思います。参考にTOEICのスコアでいうと、県大に入学当初470、3年後期の留学開始までに700前後で伸び悩み、帰国直後(それでもTOEIC対策をして)875、上記のような勉強をして最近やっと915になりました。

留学というものは意外と地道な過程です。英語が苦手だけで克服したくて留学に関心がある人には、私の経験に基づいた話ですが、留学が一大イベントとして成功か失敗に終わるものではなく上記のような過程と捉え、まず過程の一つ一つを試してもらうことで留学実現のためのヒントにし、より充実した留學生活にしてほしいと思っています。人にてはごく当たり前のことだと思いますが、私にとって留学を経てやっと得たこの気づきを、私のように英語の勉強が楽しめなかった人のお役に立てばと切に願っています。

ミネソタ研修に参加して

健康栄養学科 4年 鈴木愛美

2012年3月にアメリカのミネソタ州に行く研修旅行に参加しました。アメリカに行ってみよう。その気持ちだけで参加を決めました。実際に参加してみると、英語に囲まれた生活は大変でしたが、自分の伝えたいことを伝えられた時の感動はとても大きかったです。また、高校1年の時にオーストラリアに行ったことがありましたが、その時よりも英語を話し、理解することができていたことを実感できたのも嬉しかったです。

ミネソタで生活する中で、事前に食べることが好きと伝えていたので、ホストファミリーに様々なアメリカの料理を教えてくださいました。アメリカの料理は多種多様で、様々な人種の人たちが生活していることを食事から理解できるほど種類が豊富でした。

研修から3年経って、アメリカに行ったことは私にとっていい意味で私の英語力と食の知識に大きな変化を与えてくれたと思っています。また、機会があるうちに自分の知らない世界に足を踏み入れておくことは大切なことだと感じました。



子ども学科 3年 皆川優香

1年生の春休みにミネソタ研修に参加しました。私にとっては念願の海外で、ホストファミリーに初めて会った時には、これから約1ヶ月間やっていけるのかという不安と、期待でいっぱいでした。この研修で考えさせられたことは、家族とは何かということ、そして自分自身が日本について全く知らなかったということです。

私のホストファミリーには子どもが3人いて、双子の兄妹とグアテマラ出身の養子の子どもがいました。家族は皆、強い絆で結ばれ、お母さん、お父さんは3人の子ども達を誇りに思い育てていることを教えてくださいました。そして最後の日、私のことを遠い日本にいる彼らのお姉さんと言ってくれ、血がつながっていることだけが家族でないと、人の温かさ、養子縁組に対する考え方を知ることが出来ました。そして、当たり前に使っている日本の製品が細かい所に配慮され、とても工夫が凝らされていると他国の製品を使って初めて初めて気が付き、日本人の緻密さや日本の良さを再認識し、また、日本の国旗や文化について上手く説明できず、日本のことをもっと知りたいと思うようになりました。この研修で文化の違い、考え方の違いを自分の目で見て触れ確かめられたこと、感じたことは大学生活の中で大きな糧となっています。



テーマ展示

図書館では、時事的なテーマや、学校行事と関連したテーマを設定し、所蔵する資料や、利用可能なサービスを紹介する「テーマ展示」を随時実施しています。そんな「テーマ展示」の中から、今年度実施したものを紹介します。

図書館でも就活

6月初旬から、3年生対象の就職ガイダンスが始まったのを受けて、図書館入口付近にコーナーを設置しました。「働くことについて考える本」や「労働環境・雇用情勢に関する本」を中心に並べたほか、図書館で就職活動に活用できる資料、新聞・雑誌・データベース等も併せて紹介しました。



図書館

新潟を知ろう

図書館では毎年「新潟県立大学後援会」より、「新潟」に関する図書をご寄贈いただき、閲覧室入口付近の「後援会寄贈図書コーナー」に並べ活用しています。

今年度も図書をご寄贈いただきましたので、図書館で最近受け入れた図書とあわせ「新潟を知ろう～後援会寄贈図書を中心に～」と題し、後期開始の10月に、カウンター前で紹介しました。



東京サテライト

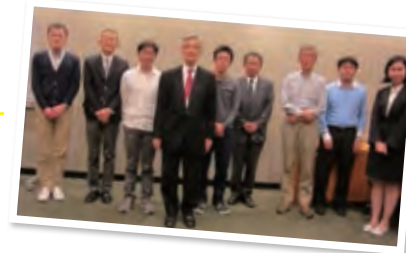
1 「知的活性化構想」と題し、猪口学長はじめ3公立大学学長が記者会見

9月25日に日本記者クラブ(東京都千代田区)にて猪口学長のほか、公立はこだて未来大学(北海道)、長崎県立大学(長崎県)の各学長が出席し、「知的活性化構想」と題した記者会見が行われました。各学長は、公立大学の強みとして「地域との密接な関係」をあげ、「地域の課題解決につながる取組」などを紹介しました。



2 実証政治学の最先端学術会議

10月10日に東京大学山上会館にて新潟県立大学・実証政治学研究センター主催の「実証政治学の最先端学術会議」が開催されました。各分野の研究者が、それぞれの研究成果について発表するとともに、積極的な意見交換も行われました。



編集後記

この冬は12月からよく雪が降り、キャンパスも真っ白になっています。冬本番の真っ只中、新潟県立大学広報誌第12号を発行する運びとなりました。「学生生活」「連花祭」「留学・研修」のコーナーでは、学生生活がよくわかるように工夫しました。また、4人の教員の「研究紹介」、担当教員と履修学生の両方から紹介をする「授業紹介」を通して、授業や研究についてもお伝えしています。さらに、今号では「学生の旅」「教員の旅」として、旅の思い出を掲載しましたが、休暇を利用しながら、本学の学生や教員がさまざまな旅・経験を楽しんでいる様子を是非、ご覧ください。

■連絡先

新潟県立大学
〒950-8680
新潟市東区海老ヶ瀬471番地
TEL:025-270-1300
FAX:025-270-5173
E-mail:unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト
〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail:unptokyo@unii.ac.jp